

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までのものがわかりづらく、日々のサービス提供にそぐわなかった為に、新しいものを検討。ホーム会議で話し合い全スタッフの確認の元作ることで理念の共有を目指している。	管理者と職員でホームにふさわしい独自理念を作成し、「ユニット会議」で確認している。週を決め唱和し、日々のサービス提供場面で職員が常に立ち戻る基本的な考えとして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板をまわして頂き、地域の行事を確認。参加できそうなものには申し込みをしている。地域の商店から食材を購入。細かい注文にも応じていただいている。	自治会費を納め、地域との交流も回覧板を通して情報収集し、スムーズに行われている。社協主催の「童謡唱歌を歌う会」が年3回行われ、毎回10名前後の方が参加している。河川沿いを散歩の際に地域の方より野菜をいただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年3回、地区社会福祉協議会主催の「童謡唱歌を歌う会」にお客様有志と参加。スタッフの対応方法を実際に見て理解いただけるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3が月に1回、定期的開催。ご家族・地域の代表、行政の担当者に出席頂き、状況報告を行いながら意見を頂戴している。	運営推進会議は定期的開催されており、区長、広域連合職員、市高齢者福祉課担当者、民生委員、介護相談員等が出席し、職員との双方向的な会議となっている。委員からの意見や要望は職員に周知し、内容を検討しホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて連携を図っている。事故発生時には報告を行い、必要な助言を頂いている。	市の介護相談員が定期的に来訪し行事に参加していただいたり、事業所の情報発信などをしていただき協力を得ている。広域連合主催の会議の資料を参考にし、運営に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3つの要件を確認し、必要以上に身体拘束につながる施錠等しないよう研修を行った。	入居時に家族等に説明している。身体拘束をしないケアについて職員は正しく理解しており、徘徊傾向のある利用者についても見守りや声掛け等で対応し、安全面に配慮した取り組みがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で研修を実施。虐待防止に努めている。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な場合には説明を行い、了解を得た上で署名、捺印いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見要望を言ってもらえるような信頼関係を築く努力を行っている。介護計画書の評価時や、日頃の面会時はよい機会としてとらえ、意見を伺うようにしている。	家族が来訪しており、管理者や職員は意見・要望を気軽に伝えていただけるよう配慮し、意見等はホーム会議で話し合わせ、サービスに反映している。またホームの「ニチイ祭り」について、毎月発行のお便りで家族等に来訪を呼びかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議を月1回開催する中で、聞き取りを行っている。意見が出た場合は、その場で話し合ったり委員会に下ろして意見の調整を図っている。	ホーム会議は月1回開催されている。職員全員に直接伝えたいとの管理者の思いもあり、シフトを確認し、3回ほど繰り返し周知している。また、昼休みのユニット会議での話し合い内容も運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤者には、拠点運営に関する内容を把握することで深く関心を持って仕事に取り組めるよう働きかけている。非常勤者は会社のキャリアアップ制度を活用し、就業条件の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議で研修を必ず行い、そのとき必要な病気の知識や対応等内容に組み込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社の地域密着型サービス事業所と定期的に意見交換する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを実施し、多くの情報を収集することでご本人を理解し、安心のための関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯をお聞きし、ご家族の気持ちが生かされるよう努めている。よい関係が築けるよう傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式の書式を活用し、アセスメントに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に共同で取り組む姿勢を持ち、一つのことでも、短時間でも関わっていただくよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を、担当者が月1回メッセージカードに書いてお知らせしている。遠方の方やあまり面会に来られないご家族にも情報が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りや、電話の取次ぎ等できる限り関係が途切れないように努めている。意欲の低下や関心が薄らいできている状況も見られる。	友人、知人等来訪者については事前に家族等に了解を得ており、面会も安心して支援できている。職員が利用者から手紙の代筆を頼まれることもある。また、家族と共に馴染みの美容院へ出掛け方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の能力に差があり、介助が必要な方に対してできる方は理解が及ばず、非難されることもあるためスタッフが間に入り、状況を説明している。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要がなければ連絡していない。 状況の把握もしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「つぶやき集」を作り、お客様の眩きを拾う。スタッフで共有し、お客様の気持ちの把握に努めている。	二階「霧が峰」ユニットでは「つぶやき集」として記録を取っている。言語によるコミュニケーションで判断するよりも表情から汲み取るほうが良い場合もあり、各利用者毎にきめ細かく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の書式を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別の介護記録により、日々の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの内容を基に担当者会を行い、意見を集約して介護計画書に生かすよう心掛けている。	スタッフは、一人から二人の利用者を担当している。担当職員から情報・意見を聞き、また家族よりの意見や要望等も取り入れ定期的な見直しも行っている。利用者に状態変化が見られたときには随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録により情報を共有し、必要な内容を盛り込んだ介護計画書の作成に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合った内容の検討を行い、個別を主としてサービス提供するように心掛けている。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館での活動に参加したり、地区の桜の名所を散歩したり、地域の方々に受け入れていただいで生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様の希望するかかりつけ医による受診支援を受けている。(施設提携医以外の方2名。)提携医は月2回診療により医療支援。	かかりつけ医への定期受診は家族が利用者の状態を把握する大切な機会であるため原則的には家族同伴であるが、臨機応変に職員も対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいない。訪問看護が毎週木曜日に情報を収集し、必要な支援を行って来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供している。入院中は見舞いのかねて面会し、病状や退院時期の確認等必要な情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携加算の説明の中で話をさせていただいている。重度化において提携医、訪問看護、ご家族、スタッフで対応を話し合ったケースがあった。	開設から3年目を迎え、直前までの経験はあるがまだホームでの看取りはない。利用前には家族に重度化した場合等について十分説明がされており、職員は看取り等の現実に遭遇した場合の研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の項目として取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・消火訓練を実施している。消防団の参加は望めなかったが、区長に参加頂き、状況の確認をお願いした。消防団には建物の見取り図、お客様の状態を情報提供している。	地区の「防災たすけあいマップ」に事業所の情報を載せていただいている。前回の避難訓練では、区長が避難時の際の所要時間を測り、改善策を管理者や職員と検討するなど、協力体制が出来ている。また、食料品等の備蓄は三日分あり、運営会社本社からからは地域の方々にも提供するよう指示を受けている。	

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の介助時には常に配慮し、拒否が見られるときにはスタッフを変えたり、同性介助が望ましいときにはできるだけ意に沿うようあたっている。	呼びかけは、姓や名に「さん」付けで呼びかけている。耳の遠い方には耳元で相手ができるようにはっきりと話かけている。サブリーダーが把握し、気がついたことがあれば注意を促すように働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の意向を確認し、ケアにあわせて頂く姿勢でいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はある程度決めているが、その時々で状態を幅を設けている。入浴やお休みされる時間はお客様に確認し意向に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとのしたくはご家族に協力をお願いしている。訪問理容サービスにより、定期的にかットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際、複数のお客様が同時に関わる事で混乱がある場合は、交替で行っていただく。洗い物は基本、自分のものは自分で洗って頂くように声掛けしている。	利用者各自の嚥下・咀嚼機能に応じている。現在、トロミ食2名とミキサー食1名と、食形態を工夫している。また、利用者の方は出来る範囲で片付けや洗い物を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に水分量など記録し、1日1500ccを目安に摂って頂くように努めている。食事が進まない時は、できる限りで代替りのものを用意させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後されない方もいるが、夕食後は確実にして頂くよう声掛け確認している。介助の方は食後口腔内の確認を必ず行っている。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録等に排泄の状況を記録し、それによって必要な誘導介助を行っている。	布パンツの方やリハビリパンツ使用の方とそれぞれであるが、職員は排便・排尿についてパターンを把握しており、声掛けし、誘導を行っている。誘導や見守りの際、利用者の自尊心を損ねないようにさりげなく支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分、ヨーグルトを摂って頂くように献立の内容を考えている。運動の機会としてラジオ体操を10時に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決めてあるが、それを優先せず、希望を聞いたり、身体状況に応じて声掛けさせていただいている。週2回以上は機会を確保。入浴剤を好みにより使用している。	4名の方が自立できている。その他の方はさりげなく見守りで支援し、利用者の体調や希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調に合わせて入浴方法や回数など臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を適温に保ち、寝具を定期的に洗濯して気持ちよく休んでいただける環境を確保している。午睡を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を管理し、スタッフが常に確認できるようにしている。薬担当が変更時の周知を責任を持って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常面での家事への取り組みはもちろん、全体で行うレク活動、個別に取り組む余暇活動への参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の支援は行っているが、希望に沿っての外出は実施できていない。ご家族によっては定期的に外出の機会を持ってくださっている。長時間の歩行が困難になってきている。	利用者の高齢化と車椅子対応の方が増え、外出の支援が難しくなっているが、河川沿いや閑静な住宅街の散歩の支援をしている。	事業所の敷地も広く、周辺も閑静な宅地と田畑に囲まれており、日常的な散歩の支援もしやすい環境にあるので、外気に当たる機会を増やしていただくことを期待したい。

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお小遣いを管理させて頂いている。買い物など必要に応じて使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される場合は、電話を使っていたいっている。年賀状を家族に出すためにレク活動を使って創作した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし、清潔な環境を心掛けている。お客様のぬり絵や季節の行事に沿った飾り付けを行っている。	大きな窓からは居ながらにして周りの山々が見ることができ、共用スペースには利用者の塗り絵や貼り絵などの作品が飾りつけられ、温かみのある空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は出入りや使用を自由に行っている。居室の扉を施錠し、夜間休まれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き、好みに沿った空間を作っていたいっている。以後、必要に応じ安全面に配慮したり、使い勝手を考えて物の移動をお願いする場合もある。	居室には家族の写真や利用者の作品等が飾られ、一人ひとりが居心地良くその人らしく過ごせるように配慮がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置、手すりの取り付けなどできる限り配慮されている。		